

「埼玉県動物愛護管理推進計画見直し(案)」に対する御意見と県の考え方

【実施概要】

◆意見募集期間: 令和2年11月10日～令和2年12月9日

◆意見者数: 3名

◆意見数: 15件

(反映状況の区分)

A: 意見を反映し、案を修正した B: 既に案で対応済み

C: 案の修正はしないが、実施段階で参考としていく D: 意見を反映できなかった E: その他

No.	御意見の内容	意見数	県の考え方	反映状況
適正飼養の推進に関するもの				
1	地域全体で野良猫や地域猫や犬を守っていかないといけない。そのことで地域全体での連帯感が生まれ、地域活性化にも繋がると思う。	1	民間ボランティアの協力を得て地域における啓発活動の推進に積極的に取り組む旨を記載しております。また、地域における飼い主のいない猫問題を解決する手段として、地域猫活動の導入を促進する旨を記載しています。	B
2	保護団体や動物愛護センター、保健所などから動物を引取り一緒に生活していこうと決めた方々の情報を管理すればいいのではと思う。	1	御意見の趣旨につきましては、個人情報取り扱いに留意しながら、実施段階での参考とさせていただきます。	C
3	マイクロチップは動物たちの体に良くないので、引き取った動物とその新しい飼い主の情報を数字でもいいので管理していけばいいと思う。	1	御意見の趣旨を拝聴いたしました。	D
4	動物を譲渡する場合には、条件として最期まで絶対に看取することを条件にした方がいいと思う。	1	現在も、行政機関から新しい飼い主へ動物を譲渡する場合には、終生飼養を条件に譲渡を行っています。引き続き、飼い主の終生飼養の責任について啓発を行ってまいります。	B
5	愛護センターや保健所、保護センターに対して、県や自治体が税金から管理用の費用を出せばいいと思う。	1	埼玉県動物指導センターや各保健所、さいたま市動物愛護ふれあいセンターは、県や自治体が設置し、運営しております。今後も各施設の適正な管理に努めてまいります。	B
殺処分の削減に関するもの				
6	動物管理センターにおいて、各市町村と連携し、県民の皆さまが命の大切さや終生飼養できる環境を整えるよう努力し、殺処分を減らすよう努めてほしい。	1	既に同趣旨の内容を含んでいるため、案の修正はいたしません。各種広報媒体を活用しながら動物愛護啓発に努めてまいります。	B
7	子供を産むことは自然なことから、殺処分を減らすために妊娠させないようにするTNR推進はやめていただきたい。	1	飼い主のいない猫の不妊・去勢手術の推進については、殺処分数の削減につながるだけでなく、地域の猫の生息数を減らすことで生活環境被害の防止にも寄与する有用なものであると考えるため、原案のとおりとします。	D
8	収容した動物について、殺処分の期限を設けないでほしい。	1	犬猫の殺処分ゼロを本計画の終期における目標として記載しております。なお、直ちに動物の収容期限をなくすことは困難ですが、目標の達成状況を踏まえて、適切な収容期限を設定してまいります。	C
9	埼玉県全体で殺処分を無くしていくことについて、県民全世帯に手紙を配布してほしい。	1	広報紙やホームページ、スマートフォンアプリ等によって積極的に広報する旨を本計画に記載しており、御意見の趣旨につきましては、実施段階での参考とさせていただきます。	C
動物取扱業の適正化に関するもの				
10	猫カフェや犬猫を扱うペットショップが届出を行う際には厳重にチェックを行う必要がある。保健所に届出を出す前に、飼育数など必要な条件や保護している犬猫を譲渡できる条件を満たせるよう、行政として指導してほしい。	1	第一種動物取扱業の登録制度及び第二種動物取扱業の届出制度を着実に運用し、動物愛護管理法に定める基準に適合するよう監視・指導を継続して行ってまいります。	B

11	ペットショップの取扱い方を変えて、ペットショップの生体販売を減らしてほしい。	1	御意見の趣旨を拝聴いたしました。	D
12	保健所や愛護センターに連れてこられた犬や猫たちの情報をペットショップに貼り、引き取ってくれる人を募集したらいいのではと思う。	1	御意見の趣旨につきましては、実施段階での参考とさせていただきます。	C
その他				
13	野生のクマが出没した際、安易に殺してしまうのではなくて、生きとし生けるもの、共生していく方法を探っていくことが必要ではないでしょうか。	1	野生動物の取扱いについては、動物愛護管理法の所掌となっていません。本計画は動物愛護管理法に基づいて策定するものであるため、野生動物の取扱いに関する事項は記載対象外とします。	D
14	軽井沢町のように、野生動物との共生の道を探るといふ市町村は現在どのくらいあるのでしょうか。取り組まれている実践例は研修させていただいたらどうでしょうか。	1		D
15	犬・猫の殺処分ゼロに向けては、ずいぶんと改善されて成功している取組を多く見聞きます。これからは、シカ、クマ、イノシシ、サルなどの野生動物にもスポットを当てるときが来たのかもしれないと感じています。そのためには、やはり専門家の方々の見識が不可欠だと思います。県市町村職員だけでなく専門家の方々と連携してやっていくことが必要だと思います。	1		D